

スマートモビリティワーキング

京都府商工労働観光部
文化学術研究都市推進課

京都府内における新モビリティサービス導入検討エリア

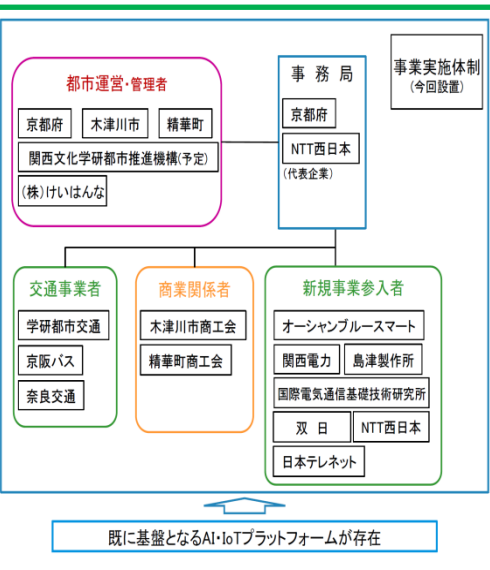


学研都市スマートシティモデル事業

- 文化、学術、研究の中心都市として企業立地等が進むが、敷地規模が大きいことから相互の円滑な移動の障壁があり、企業間の交流活動等に影響。また、都市建設後30年余が経過し、高齢化する地域社会への対応が課題。
- 多様な移動手段を導入しシームレスな移動環境を整備するとともに、新たな産業の創出・創発、多文化・多世代の共生コミュニティなど世界に先駆け、科学技術と生活・文化が融合した未来の暮らしのモデルの構築を図る。

◆新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

◆事業実施体制



施設間の多様な移動手段の確保

- ・街区間を移動するグリーンスローモビリティを導入し、ラストワンマイルの交通を確保。デマンドでの呼び出し等により利便性向上、効率化（ラストワンマイルオンデマンドモビリティの導入）
- ・カーシェア、シェアサイクル等の整備



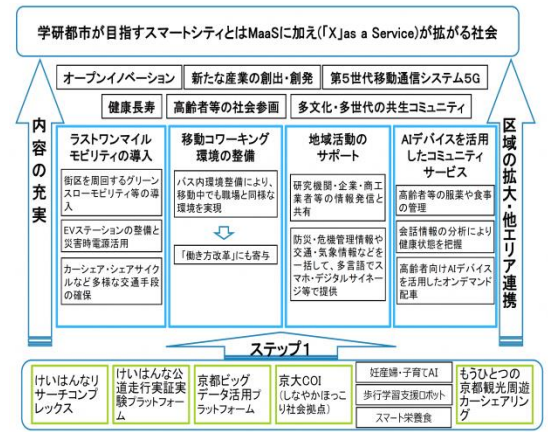
高齢者の生活支援

- ・AIデバイス（マイク、スピーカー）を高齢者住宅に整備し、日常の話し相手、健康相談、薬の服用や食事管理を支援
- ・音声によりラストワンマイルモビリティの手配を実施



統合プラットフォームの整備

- ・既存の京都ビックデータプラットフォームとの接続やオープンデータ、交通事業者等からの取得データ等により統合プラットフォームを構築



コワーキング環境の整備

- ・京都駅と精華・西木津地区間の中距離直通バスの車内にてコワーキング環境の整備
- ・企業からの認証を受けて「移動中の業務＝勤務」とし、働き方改革の取組を推進
- ・通勤者、出張者等の移動をマイカーから公共交通機関に転換

◆2019年度の主な取組

- ・シェアサイクル、グリーンスローモビリティの実証実験
- ・高齢者向けAIデバイス（見守り、健康相談等）による地域での実用検証

南山城村過疎地域型MaaS

実験の概要

京都府南山城村域において、既存の村営バス等の再編、自家用有償運送等の導入による村内の交通網整備に合わせ、これら交通網とJR関西本線等とも組み合わせ、シームレスな移動を生み出すための過疎地域型MaaSの実証実験を行う。

構成員(予定)

京都府、南山城村、NPO法人 南山城村むらおこし事業組合、南山城村社会福祉協議会、(株)南山城、月ヶ瀬ニュータウン自治会

地域の交通課題

- 人口減少、少子高齢化により、公共交通利用者が減少し、バス事業者、タクシー事業者が撤退。それに伴い、自家用車がないと生活できない環境に。
- 村内の交通網は脆弱で、今後、更なる高齢化により、自家用車がないと、高齢者は、近隣のバス停までの移動も困難となる恐れ。

本格的な導入に向けた検証項目、目標値

アプリのダウンロード数(2,700ダウンロード)

自家用有償旅客運送バス利用者数(10人／日)

JR大河原駅の利用者数(69人／日)

JR月ヶ瀬口駅の利用者数(205人／日)

実験内容

地域交通再編事業

地域交通MaaS事業

1 地域と鉄道・広域バスを結ぶ

● 村営バス・コミュニティの有償運行化と再編成

2 各戸から地域・交通を結ぶ

● 社協、NPO等と連携した自家用有償運送事業の導入

3 月ヶ瀬NT・道の駅と鉄道を結ぶ

● 地域主体の新モビリティによる自家用有償運送事業の導入

4 高齢者の外出促進

● 買い物支援、健康づくりイベント等開催など外出機会の創出

シームレスに繋ぐアプリやシステムの実証実験

予約・決済システム導入

● 地図アプリを活用した経路検索システム(JR含む)の導入

● 経路検索システムと村内移動手段の予約・決済システムの連携

● 運賃の定額サービスや回数券、付加価値による外出の誘発

● お買い物情報や生活情報や観光情報の提供

トヨタ・モビリティ基金助成事業

国 新モビリティサービス推進事業

海の京都観光圏（丹後鉄道沿線地域MaaS）

実験の概要

2019年7月より京都丹後鉄道沿線地域に提供予定のスマホ向けWILLERS MaaSアプリの拡張機能として、様々な移動手法・周辺施設におけるQRコードでの一括予約・決済機能導入の効果を測定する

協議会の構成員

全体統括	WILLER株式会社、京都府
沿線自治体	兵庫県、福知山市、京丹後市、宮津市、舞鶴市、伊根町、与謝野町、豊岡市
交通事業者	WILLER TRAINS(株) 丹後海陸交通(株)、全但バス(株)
観光関係者	(一社) 京都府北部地域連携市圏 振興社、(一社) 豊岡観光イノベーション
システム開発	WILLERS PTE, LTD.、AZAPA株式会社

地域の交通課題

- ① 鉄道・沿線交通の利便性
地域交通が低密度で交通空白地が多いことに加え、移動に関する情報(経路・所用時間・料金・乗車方法)に関する情報が不足。
- ② 高齢者を始めとする免許非保有沿線住民の孤立
沿線住民の徒歩可能距離を考慮した地域交通が不足しており、マイカーなくしては気軽な外出ができない。
- ③ 地域交通事業者におけるチケットレス対応への投資負担
都市交通利用を前提としている既存のICカード等のシステム導入は、投資負担が大きく導入が難しい。

実験内容

- ① WILLERS MaaSアプリへのQRシステム導入、並びに沿線交通・施設へのQR読取システムの導入
 - 2019年7月提供予定のMaaSアプリでは、経路検索、一部事前予約・配車・決済を可能とする
 - 本実証でQRシステムを導入、区間乗車含む全ての交通及び周辺施設での決済をアプリで可能とする。導入対象： 丹鉄、沿線バス(丹海等)、タクシー、ケーブルカー、遊覧船、地域のお土産店、道の駅、飲食店等
対応言語： 日本語・英語・中国語、アプリはダウンロード無料
- ② WILLERS MaaSアプリならびにQRシステムから取得したデータの沿線地域における利活用
 - MaaSアプリより取得する利用者属性データに加えて、QRデータから行動履歴及び消費履歴データを把握
 - データに基づくオンデマンド交通を始めとする地域ニーズに根差した新交通サービスの企画や、地域計画に役立てる。

本格的な導入に向けた検証項目、目標値

- KPI-1: QR決済・チケット利用回数: 1,000回/月
(インバウンド観光客に特化した利用回数は目標値を継続的にモニター)
- KPI-2: QRシステム利用満足度: 5点満点中3.7点以上
- KPI-3: QRを活用した公共交通乗継回数: 500回/月
(継続的にモニターし、公共交通における回遊性の指標とする)